

J **apanese text**

2016年 春/夏号 日本語編

旅館

緑陰

[The Ryokan Collection]

写真=工藤憲一

文=鈴木博美

p.078

自然に囲まれた旅館で過ごす時間は、さまざまな感性を呼び覚ましてくれる。夏に味わってほしいのは、“陰影に心地よさを見いだす”という日本的な美の世界。その空間に身を置けば、心は穏やかさに満たされてゆく。

花々が咲き誇る春や、錦繡をまとった秋といった、心が弾むような華やかさを愛でる一方で、日本人には陰影のあやに美や心地よさを見いだすという繊細な感性がある。夏が近づくにつれ、陽射しが強さを増すと同時に、影も際立ってくる。その陰影に着眼点を置くことで暑い夏を風雅なものとして捉えた季節の言葉が、明るい陽射しの下で青々しく繁る木々が作り出す陰を意味する“緑陰”である。

“緑陰”は、17音で作られる世界で最も短い定型詩である俳句をはじめ、身近な所では手紙における時候の挨拶などでも、涼感漂う言葉として好んで使われてきた。この言葉から想起されるのは、勢いよく降り注ぐ夏の太陽と、それをやわらかに遮る緑が織りなすきらきらと輝くような光と影のコントラスト。さらには、陰の下をそよぐ爽やかな風と葉擦れの音、生き生きとした青葉の薫りは思わず深呼吸をしたくなるような清々しさである。“緑陰”は、見目派手やかではないが、人のあらゆる感覚へ穏やかに響き、静かで清らかな心地よさへと誘ってくれる。

日本人は四季折々の自然を丁寧に見つめ、柔軟に受け入れることによって独自の文化を育んできた。暑さに対しても無理に抗い退けるのではなく、自然の変化を敏感に察し、一瞬の涼しさを感じ取ることで夏を積極的に愉しんだ。そして、涼を感じるための知恵や工夫の中にも美しさや風流を追求した。エアコンなどを使うことがあたりまえになった現代においても、日本人は一瞬の涼を捉えた瞬間にこそ、「いいなあ、

日本の夏は」と、夏が到来した喜びをしみじみと実感するのである。

旅館に滞在し“緑陰”中に身を置いていると、陰影の内に美を見だし、自然と寄り添いながら生きてきた日本人のしなやかな感性を窺い知ることができる。色濃い緑を眺めながら手足を伸ばし、大地の恵みそのものである温泉につかって五感を開放すれば、湯上がりの肌を撫でる風の気持ちよさが感じられる。そして、自然と調和する客室の中では、障子や簾を透過した光が室内へと溶け込んでゆく陰影のグラデーションに美しさを見いだせるだろう。感覚を研ぎ澄まして涼を味わううちに、おのずと雑念は遠のき、きっと心が穏やかに満たされるような極上の憩いが訪れる。

(p.079)

左：山里のような雰囲気、柳生の庄の大露天風呂「武蔵の湯」。美肌の湯として知られる、修善寺温泉の良質な湯を楽しめる。

右上：和紙を透過したやわらかな光が射す、障子窓。

右下：せせらぎの音が聞こえる客室「遊魚亭」。全客室が伝統建築である数寄屋造で作られている。

左下：つくばいにさりげなく生けられた花など、日本らしさが溢れる洗練された室礼を各所に見ることができる。

(p.080)

上：明神館の周囲は国定公園に指定されており、窓を開ければ豊かな緑が間近に迫ってくる。

右：客室「青龍庵」では、鉄瓶で日本茶を楽しめる。

以上写真2点=山平敦史

下：前方は1.2mの深さがあり、立った姿勢で入れる立ち湯「雪月花」。湯船に景色が映り込み、まるで湯船が宙に浮いているかのよう。身も心も自然と一体になる感覚を存分に味わえる。

(p.081)

右：竹林に囲まれた、竹ふえの客室「小夜」に設けられた檜製露天風呂。広いウッドデッキのチェアに横たわって竹笹のざわめきに耳を澄ませば、湯上がりの素肌に清涼な風が通り過ぎてゆく。

下：古き時代のぬくもりと、モダンさを兼ね備えた古民家風の客室。大自然に包まれたプライベート空間で、贅沢なひとときを過ごせる。

写真提供=竹ふえ

柳生の庄

歴史ある温泉地として知られる修善寺の奥に位置する閑静な純和風旅館。2009年、創業40年を機に、日本建築の粋と風情を追求した本数寄屋造の客室を改修した。建築、室礼、庭、料理など、すべてに日本の美を追求することで生まれる凜とした雰囲気、心地よいひとときを演出する。情緒豊かな折々の景色を愛でながら、日本のもてなしの文化を存分に堪能できる。京懐石と本格割烹を基本に、素材の持ち味を大切にされた季節感溢れる料理でも名高い。

住所／静岡県伊豆市修善寺 1116-6 部屋数／15室

明神館

厳しい審査で知られる会員組織「ルレ・エ・シャトー」に加盟している、落ち着いた和の寛ぎと洋のラグジュアリーが融合したスパ&リゾート。標高1050mの山中、2つの渓流に挟まれた場所に位置しており、川の音や野鳥の心がなごませる。自家農園や契約農家で有機栽培された野菜をはじめ、信州の食材を主役にした食事も人気。和食と、野菜中心の軽やかなフレンチのいずれかから選べ、昨年リニューアルされた自然を眺望できる開放的なダイニングでいただくことができる。

住所／長野県松本市入山辺 8967 部屋数／41室

竹ふえ

約4000坪（1万3223㎡）の広大な敷地の中に、11の客室が点在する。7部屋には、内湯に加え自家源泉掛け流しの野天風呂が設けられており、大自然に囲まれたプライベート空間で心置きなく過ごせる。自然素材を生かした古民家風の客室は、和モダンな趣。囲炉裏を囲みながら、九州の美味をふんだんに使った創作懐石を味わえる。敷地内には天を突くような高さの孟宗竹が見事に茂り、幻想的で雄大な緑の世界をつくり出している。

住所／熊本県阿蘇郡南小国町大字満願寺 5725-1

部屋数／11室